

## 山口市文学碑巡り No12 (湯田温泉錦川通り一中原中也詩碑)

前回に続いて錦川通りに建つもう一つの文学碑、**中原中也**の詩碑を紹介します。前回の山頭火の句碑と隣り合わせの位置に、**中也**の未発表の「童謡」と題した詩碑が建っています。彼の自筆による書体で刻み込み、**1933.9.22**とその詩の創られた日が石碑の左端に斜めに記されています。丁度この時期に詩集「**山羊の歌**」が刊行される予定でしたが実現に至らず、またこの年の12月には、嘗ての恋人**長谷川泰子**と**小林秀雄**との関係に苦悩しながらも、**上野孝子**との結婚を決意して四谷のアパートで新婚生活を始めています。詩集発行の予定が実現せず、挫折感を抱えて過去の恋愛に決別しようとして苦しんでいた頃にこの詩を書いた筈です。この詩の最期の一節の“**象の目玉の、汽笛鳴る**”とは如何なる心象風景なのでしょう？前回の山頭火の解り易い句に比して、小生には難解な詩です。

### 童 謡

しのめの よるのうみにて

汽笛鳴る。

こころよ 起きよ

目を醒ませ。

しのめの よるのうみにて

汽笛鳴る。

象の目玉の、

汽笛鳴る。

1933. 9. 22

中也の詩碑と詩碑付近の錦川通り風景



(76期 厚東一生)